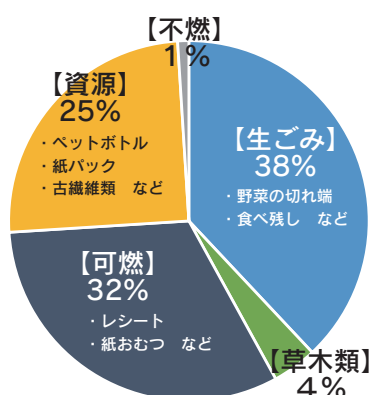
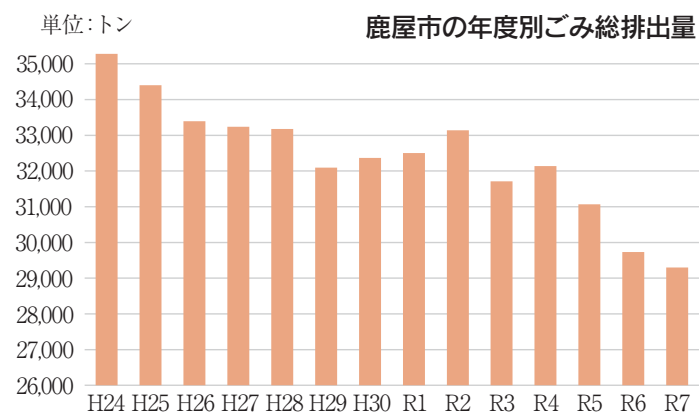




みんなで減らそう！鹿屋市のごみ

～未来につなぐ、きれいなまちづくり～



▲燃やせるごみの内訳 (R5)

私たちの暮らしから毎日出る「ごみ」。本市はごみの減量やリサイクルに取り組んでおり、市内のごみ総排出量は、平成24年度の約3万5,300トンから令和7年度には約2万9,200トンまで減少しています。一方で、排出されたごみの総量に対して、再び資源として利用された量を示す資源化率は、11%にとどまっております。「ごみを減らすこと」に加えて、「資源として生かすこと」も大きな課題となっています。

ごみを資源に

市では、ごみ減量のため、資源として再利用する、繰り返し使う、不要なものを断る、買う量や使う量を減らす「4R運動」を進めています。燃やせるごみの内訳(左グラフ)を調べると、25%が資源物、38%が生ごみであり、ごみをさらに減らすためには、資源物の分別と生ごみの減量が必要です。

資源物は、捨てる前に分別を確認し、資源として出しましょう。また、食材は使い切り、料理は食べ切ることを心掛け、ごみに出す前には、しっかりと水切りをしましょう。

一人ひとりの小さな行動が、ごみ減量につながります。毎日の暮らしの中で、できることから始めてみませんか。

自分ができることを

RECYCLE.
USE.
FUSE.
DUCE.



ごみ 資源

みんなで減らそう！鹿屋市のごみ

～未来につなぐ、きれいなまちづくり～



市では、市民1人1日あたりの家庭ごみを令和5年度の590g(実績)から、令和11年度までに525g以下に減らすことを目標としています。ごみの減量は、処理費用の軽減やCO₂排出量の削減につながります。一人ひとりができることからごみの減量に取り組みしましょう。

閼市環境政策課 TEL 0994-31-1115



肝属地区清掃センター
つるだ たくや
鶴田 拓也 主査

肝属地区清掃センターでは、家庭などから出されたごみの焼却・処理を行っています。単にごみを焼却するのではなく、ごみ中の灰分を溶かし、アスファルトの材料や埋め立て材として利用できる「スラグ」として資源化したり、ごみ中の鉄やアルミなどを資源として回収したりしています。

また、持ち込まれるごみの中にはまだ使える状態で捨てられるものもあります。こうしたものを回収し、自宅に持ち帰ることができるコーナーを環境ふれあい館に設けたり、自転車や家具など毎月入札を行い、必要とする人へ売却したりしています。

こうした取り組みを通して、環境に配慮し、ごみを可能な限り減らすよう努めています。

いかにいかにいかに



▲環境ふれあい館の様子



▲ごみから資源となったスラグ

分別こそが ごみ減量への近道

当センターに持ち込まれる燃やせるごみ・燃やせないごみの中には、適正に分別が行われておらず、まだ資源として利用できるものが多く混ざっていることがあります。きちんと分別が行われないと、本来ごみではなく資源になるはずのものが、ごみとして焼却されることになってしまい、ごみが増えるだけでなく、焼却にかかる費用も増大してしまいます。

一人ひとりが少し意識を変えて、ごみの分別を行うことで、鹿屋市全体のごみの総量を大きく減らすことができます。市民の皆さん、分別に取り組み、ごみ減量へのご協力をよろしくお願い致します。